

で石灰販売営業許可証が七尾警察署から発行されており、本格的に石灰販売を営んだようです。



石灰の仕入販売資料

石灰は主に府中町の春成作左衛門方より仕入れていました。中島地区では河崎の松井喜一、同松井定右衛門、豊田の水本安太郎、土川の飯村弥三右衛門の四名が石灰を肥料

として購入しており、四千二百貫目の販売実績をあげています。また、当時ではこの販売実績を七尾警察署長に報告する義務があったことも興味深いものです。

このように佐味家は中島と七尾を交易の中心としていたことが分ります。交易の中心が中島地区だったのは、徳太郎氏の奥方が豊川村字河崎の松井家からきていることも一つの要因と思われる。

このほかの興味深い資料には、本曆から必要事項を書き出した略曆の引札がありました。引札は当時の広告で、現在と同様に年末になって取引



略曆引札

先へ来年の曆が配られました。引札は「七尾港塗師町川村商店」「七尾港湊町一丁目佐田味商店」「七尾港塗師町大成醬油店」の三商店のものが残されています。

また、当時の高級家具である車筆筒も残されていました。



車筆筒

車筆筒は漆塗で、総高112cm・横幅106.8cm・奥行50.1cmの大きさです。特徴は上段に大抽斗が

3段あり、両側に引手金具の角手が付いて出し入れできるようなっています。各抽斗の高さは下から17cm・16cm・11cmとなっており、下段には右に片開き戸が施されています。正面最下部には寺院で見られる木鼻様の幕板がつけられ、両端に唐草様の彫刻が彫られています。



木鼻

小泉和子著『筆筒』（法政大学出版局）によれば、能登では羽咋地方にみられる特徴的な車筆筒であるとされています。

みなさんのお宅にも、昔の字で書かれた書類や古い民具などがありましたら市史編さん室までご一報ください。（市史編さん室は旧市立図書館（馬出町）に移転しました。）

※お問い合わせ・ご連絡は

市史編さん室

☎・FAX 53-8447